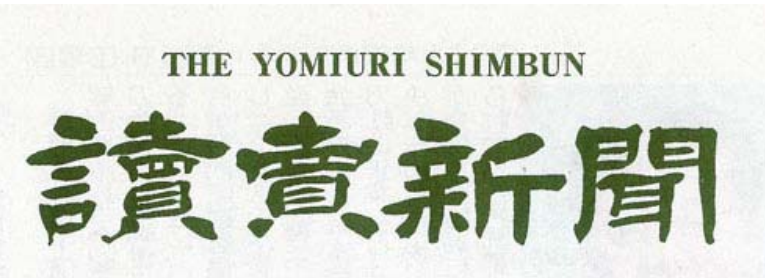




クラブポールスターの、ぬいぐるみをクリーニングして
海外の子どもたちに贈る事業が 11月21日付、読売新聞

に大きく掲載されました!

メディア登場のご紹介



くらし 家庭

ぬいぐるみ海外へ贈ろう

関西の事業者ら 眠る愛用品きれいにして

関西のクリーニング事業者らでつくる一般社団法人「MAST支援会」(大阪市)が、家庭に眠るぬいぐるみを有償で引き取り、障害者施設でクリーニングして、海外の児童施設に寄贈する「クラブポールスター」事業を始めた。

同会は4月に発足。同会顧問で、3人の娘がいる企業コンサルタント会社社長の石尾雅子さん(51)が、愛着が深いぬいぐるみは処分しづらいものの、保管に困る体験から事業を発案した。

寄贈は同会のホームページ(<http://e-cps.org/>)などを通じて申し込む。専用袋(縦70センチ、横60センチ)に入る大きさなら、何体でも託せる。引き取り料は洗濯代や輸送費などを含め1体6000円(税抜き)で、2体以上は一律1万円。同封のカードに、贈り先へ

のメッセージなどを書き、同会に返送する。

ぬいぐるみの手洗いや簡単な補修、ラッピングは社会福祉法人加島友愛会(同市)が運営する「か



寄贈されたぬいぐるみを手にする子どもたち(5日、タイ・バンコク) 〓MAST支援会提供

しま障害者センター」が担うことで、障害者の就労支援にもつなげる。一定量がたまれば、まとめて海外に贈る。

支援会によると、日本のアニメやキャラクターグッズは海外でも人気だが、途上国を中心に資金難の児童施設にとっては入手が難しい状況だという。運営責任者の小野悦子さん(39)は「ぬいぐるみが再び子どもを癒やす機会を得られるならと、有償でも寄贈を申し出てくれる持ち主がいる」と話す。

既に約200体が寄せられており、第一弾として今月5日、タイ・バンコクを訪問し、障害児施設など3か所に計170体を贈った。当日の様子はホームページで紹介している。現地を訪ねた小野さんは「子どもたちの間で取り合いになり、全員に行き渡らなかつた。追加の寄贈を考えたい」と話している。

問い合わせはMAST支援会
06・6883800・4150。

*「ティータイム」休みました。

